



萩の里

黒部市立萩生小学校

学校だより 13号

平成30年3月15日

目指す子供の姿 **や**さしく **か**しこく **た**くましく

「心のコップに自信の水を注ぐ」

校長 金三津 ひろみ

3月初めに発行された1学年だより『えがお』に、1年生が学級活動の時間に、友達に感謝したいことをカードに書いて渡す「ありがとうを伝えよう」という活動を行った様子が記されていました。カードには、「いつも遊んでくれてありがとう」「コートがハンガーから落ちていたのを拾ってくれてありがとう」など、1年生なりの友達への感謝の気持ちがたくさん書かれており、カードを渡された人も「どういたしまして」とお礼を言うなど、温かい雰囲気にも包まれた時間だったそうです。1年生の満足そうな表情が目に見えます。



6年生は、5年生の頃から、友達のよいところや感謝の気持ちを書いたメッセージカードを渡す「ありがとう すごいね」という活動に継続して取り組んでいます。6年教室の壁には、これまでに贈り合ったメッセージカードが掲示されています。カードには、「わたしが使ったテープやのりをさりげなく片付けてくれてありがとう」「悩みを真剣に聞いてくれてありがとう」「委員会の仕事を当番でない日もやっているのがすごい」など、友達に宛てたたくさんの感謝や友達のよいところが記されていました。

どちらも、思っているだけでなく、実際に声に出したり、メッセージとして書いて、相手に伝えていることに意味があると感じます。

先日、参加した講演会で、「心のコップに自信の水を注ぐ」という言葉を聞きました。子供の心の中には「心のコップ」があり、そこにたくさんの「自信の水」が蓄えられることで、簡単には折れないたくましさを身に付けることができる。その「自信の水」を増やすためには、子供自身のよいところや子供のもつ力を子供自身に気付かせる働きかけが大切だとの話でした。ちょっとした失敗では自信を失わない子供、失敗を恐れず挑戦する子供を育てるためには、子供の心のコップを自信の水で満たすような周囲からの働きかけが欠かせないのです。上に書いた子供たちは、友達の行動の中にその人なりのよさを見付け、「ありがとう」という言葉によって、相手の心のコップに自信の水を注いでいるとも言えます。

さて、わたしたち大人は、今年、子供たちの心のコップにどれだけの自信の水を注ぐことができたでしょう。卒業式は目前、修了式まで10日足らずとなりました。学校にとっての大晦日とも言える学年末は、子供一人一人にとっても、1つの学年を終える大きな節目です。子供の成長の跡をしっかりと振り返り、「あなたにはこんなによいところがある」と自信をもって伝えることで、子供の心のコップに自信の水を注ぐことのできる学年末にしたいと思います。